

# アンテック

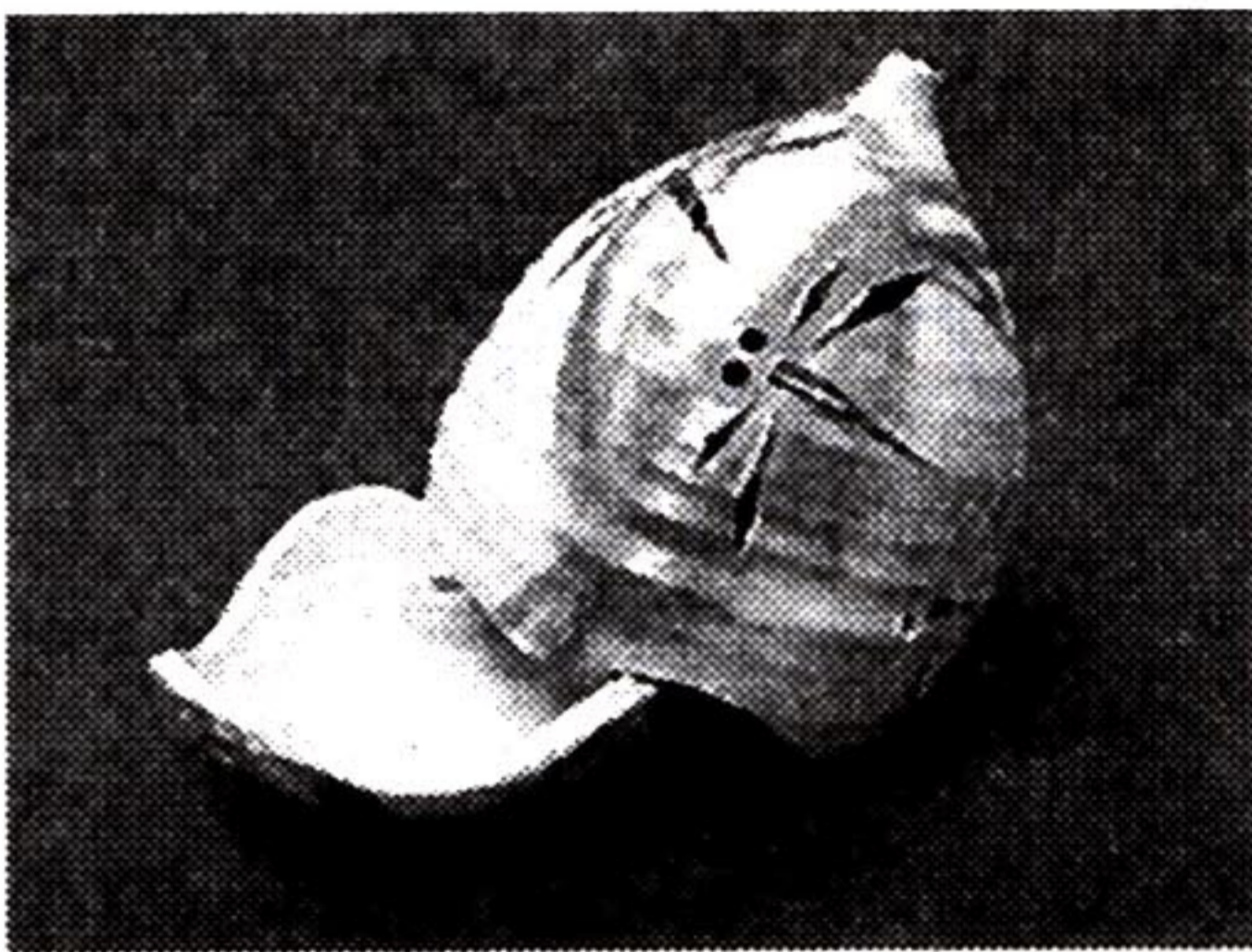
# 東京で備前焼レンタル

陶芸用電気窯製造のアンテック（岡山県瀬戸内市、末石建二社長）は、五月にも東京で備前焼のレンタル事業を開始する。まず十五人の備前焼作家と組み、約二百種類の食器・花器や置物などをラインアップ。営業拠点を新設し日本料理店や各国大使館などに貸し出す。備前焼は知名度は高いものの実際に手に取って見る機会が少なく、新サービスで需要を開拓する。

## 料理店や大使館向け

### 200種用意 営業拠点を新設

アンテックは陶芸用製品類の製造を通して備前焼作家や窯元と親密な交流がある。レンタルは一月単位のほか数日の短期にも対応する。一点か



置物や花器など200種類を用意する（備前焼の香炉①と犬）



ら受注する。レンタル料は月額が作品価格の一〇―三〇％程度。最低一点数百円からとなる。要望があれば人間国宝の作品も扱う。在庫のない商品の注文が来た場合は同社が作家に発注、作品を買い取りレンタルに回す。

五月にもアンテック販売を立ち上げ、新会社でレンタル事業を手掛ける。東京・麻布十番に営業拠点を設置し、担当者一人を置く。日本料理店や寿司店、各国大使館、個人向けに新サービスを売り込む。

備前焼は日常使いの手ごろな価格帯の商品もあるが、土作りから時間をかけるためほかの焼き物と比べると平均単価は高め。販路は作家や窯元が自前で持つほか、協同組合が大都市などでの展示販売会を実施している。ただし、バブル期と比べると市場は縮小しているという。

日本料理店では四季で器を使い分けることが多い。同社は、料理店が備前焼を買い取ることは無い。同社は「多くの作家の作品から選べる、ほかにないサービス。東京で備前焼のアピールにもつながれば」と話している。